

令和元年6月19日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K03623

研究課題名(和文) 欠乏、渴望、援助依存の経済学

研究課題名(英文) Economics of scarcity, aspiration, and aid dependency

研究代表者

高野 久紀 (KONO, HISAKI)

京都大学・経済学研究科・准教授

研究者番号：40450548

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：ベトナムでは親の教育水準が低い家計ほど、地域の教育の収益率の大きさに教育投資が大きく反応しており、社会的ネットワークも乏しい親が子どもの教育を渴望していることが示唆される。一方、ベトナムでは結婚によって現在バイアスの問題が悪化すること、ROSCAなどの家庭外のコミットメント装置が重要であることが明らかになった。また、若い女性向け教育プログラムでは、スキンケアや美を強調することで教育効果がより高くなることが示された。また、ミャンマーの調査では、娘に条件の良い夫との結婚をアレンジできない貧困層ほど出稼ぎした娘からの送金額が少なく送金の恩恵を受けにくいことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

家庭外の貯蓄コミットメント装置の重要性、親の教育水準が低い家計に対する地域の教育収益率や文化的要因の重要性が明らかになり、貧困削減政策における家庭外環境の重要性が明らかになった。また、プログラムの効果を高めるためには、若い女性に対するスキンケアなど、対象者が関心を持つ形で情報を伝えることの重要性、貧困層に対してはキャッシュフローと返済のタイミングを合わせるように小規模有志を設計することの重要性など、援助プログラムの設計が重要であることが確認された。また、親が娘の結婚をアレンジするような社会では、貧困層ほど出稼ぎした娘からの送金額が少なく、政策効果が社会的要因に大きく規定されることも確認された。

研究成果の概要(英文)：We found that the lower the education level of parents, the more the education investment responds to the regional education return rate in Vietnam, suggesting that parents who lack social networks have aspiration for their children's education. We also found that in Vietnam, marriage exacerbate the problem of present bias and commitment devices outside the household such as ROSCAs are important. In Bangladesh, we found that emphasizing skin care and beauty makes the education program for young women more effective. According to the Myanmar survey, it was revealed that the poor who can not arrange a marriage with a good husband for a daughter have less remittance from a migrant daughter and are less likely to benefit from remittance.

研究分野：開発経済学

キーワード：開発経済学 貧困

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

貧困問題に対して、途上国政府や援助機関、NGO が様々なプログラムを実施してきたが、依然として貧困は世界の大きな課題であり、「持続可能な開発目標 (SDGs)」でも、貧困問題の解決は第一目標に掲げられている。近年、貧困であることが人々の意思決定に悪影響を与え貧困を持続させるという心理学的貧困の罫が注目されており、たとえば Mullainathan and Shafir (2013) は、貧困者は、いつも目先の金策に集中せざるを得ないために、認知能力や実行制御力といった処理能力に負荷がかかり、間違っただけ意思決定や衝動的な意思決定をしてしまいやすいという「欠乏の経済学」を主張している。彼らの研究によれば、金銭の不安に心が悩まされることで IQ が 9~13 ポイントも低下する。差し迫った重要なことに集中するあまりに、緊急ではないが重要なことに注意が及ばなくなり、長期的な経済水準を悪化させてしまう行動を取ったり(高利貸しからの借金など) 将来所得を向上させる貧困対策プログラムへの参加率が低かったりする。一方、こうした貧困者のマインドセットと援助の関係については、古くから「援助依存の問題」が議論されてきた。つまり、援助が行われると、援助提供者が何かしてくれることを期待してばかりで、自ら問題を解決しようという自立心が阻害され、結局援助プログラムが終わると元の生活に逆戻りしてしまう、という議論である。こうした援助依存に対する懸念が、返済義務を課して自助努力を促そうとするマイクロクレジット (MC) や、ビジネスを通じた貧困削減を目指すソーシャルビジネスへの支持につながっている。しかし、近年のランダム化比較試験による研究では、MC が投資や利潤に与える影響はそれほど大きくない (Banerjee et al., 2015) 一方、返済義務のない現金給付が投資や利潤の増加 (Beaman et al., 2014) 就学率上昇や早婚・若年妊娠の低下 (Baird et al., 2011) をもたらしており、深刻な援助依存の問題は既存研究では観察されていない。蚊帳の無償提供が援助依存を生んで自分のお金で購買する意欲を減退させたという傾向もなく (Dupas, 2014) 極貧層を対象に、生産資産の提供、現金給付、貯蓄口座開設、技術指導などを組み合わせた 2 年間の極貧層支援プログラムは、生活改善に持続的な効果を与えている (Banerjee et al., 2015) 。

また、援助依存の問題が議論されるのは、技術指導や村落プロジェクトなどに関することが多く、欠乏に直面している貧困層は、目先の金策に精いっぱいこれらへの援助プロジェクトに十分な関心を向ける心理的リソースがなかったためとも考えられる。

2. 研究の目的

以上の研究成果は、「欠乏の経済学」の有効性を示唆している一方で、成功者の逸話の中には貧困をモチベーションに変えて努力した人々の事例も多く、スポーツでは「ハングリー精神」の重要性が強調される。これは、欠乏が、そこから抜け出そうとする「渴望」を生み出し、自制心などの心理的バリアを克服して成功した事例と考えられる。実査には、貧困者すべてが「渴望」に溢れているわけではなく、欠乏により間違っただけ意思決定や衝動的な意思決定をしてしまう家計も多い。そこで本研究では、貧困家計の意思決定を分析し、欠乏と渴望に関する考察を加える。

3. 研究の方法

上記の研究目的を達成するため、バングラデシュやベトナムなどでランダム化比較し健也ラボ実験を組み合わせた家計調査を実施し、統計分析を行う。

4. 研究成果

ベトナムのデータからは、夫婦は、現在バイアスを持っているパートナーにより多くのお金を渡しており、結婚によって現在バイアスの問題が悪化すること、ROSCA などの家庭外のコミットメント装置が重要であることが明らかになった。また、ベトナムの全国的な家計調査データを用いて子供の教育年数と家計所得の関係を調べた研究では、地域ごとの教育の収益率も考慮すると、特に親の教育水準が低い家計で、地域の教育の収益率が子供の教育年数に影響を与えていることが明らかになり、親の教育水準が低い場合には社会的ネットワークにも恵まれていないため、教育が重要な要素となっていることを示唆しており、渴望の効果が見られることが示唆されている。さらに、同国での別の価値観調査データと接合して推計したところ、現在に比べて将来を重視する地域ほど子供の教育水準が高いこと、その文化の影響は、母親の教育水準が高くなるほど弱まる傾向があることが分かった。これらは、教育の収益率や文化的要因が、親の教育水準が低い家計において特に重要であることを示している。

バングラデシュでの研究からは、若い女性に対する教育プロジェクトを行う際には、若い女性が特に興味関心を持つスキンケアや美に関するメリットを強調した教育プロジェクトを行うことで、教育効果がより高くなることが示された。これは、援助プログラムの設計において、プログラムの対象者が強い関心を持つ形でプログラムを提供することにより、援助依存を生まずに大きな援助効果を引き出すことを示唆している。

また、貧困農家向けのマイクロクレジットにおいて、従来の毎週返済という融資スキームでなく、収穫期に一括返済するスキーム、現在バイアスに対処して融資金額の提供も投資スケジュールにあわせて段階的に行うスキームなどを提供したが、一括返済はマイクロクレジットへの加入を増やす一方で、現在バイアスはさほど問題ではないが、融資金額の提供を段階的にす

ることで、不必要なお金を借りずに済むという効果があることも見出された。

また、ミャンマーの調査では、貧困層ほど出稼ぎした娘からの送金額が少なく、その要因の40%程度が、貧しい家計ほど娘に条件の良い夫との結婚をアレンジできないことによるものであり、結婚市場の構造を通じて、貧困層は子供の出稼ぎからの恩恵も少ないことが明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

- Hisaki Kono and Tomomi Tanaka “Does marriage work as a savings commitment device? Experimental evidence from Vietnam”, PLOS ONE 近刊 (2019年6月)

〔学会発表〕(計 3 件)

- Hisaki Kono “Lending Maturity of Microcredit and Dependence on Moneylenders”, Financial Management Association European Conference 2018 (国際学会)
- Hisaki Kono “Does Marriage Work as a Savings Commitment Device? Experimental Evidence from Vietnam”, CSAE Conference 2017 (国際学会)
- Hisaki Kono “Do migration and remittances alleviate poverty? Evidence from Myanmar”, Hayami Conference 2016

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況 (計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名:

所属研究機関名:

部局名:

職名:

研究者番号(8桁):

(2)研究協力者

研究協力者氏名:

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。